今日の力

2020年7月6日～7月12日

翻訳　伊 藤 若 菜

編集　相 川 忠 義

この冊子の聖句は，新改訳聖書第三版を使用しています。

御 茶 の 水 キ リ ス ト の 教 会

7月6日(月)

主 に あ る 希 望

聖書朗読　詩篇　１０１篇

それから、彼を退けて、ダビデを立てて王とされましたが、このダビデについてあかしして、こう言われました。『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心にかなった者で、わたしのこころを余すところなく実行する。』

使徒　１３：２２

サムエルはダビデに油を注ぎ、ダビデこそイスラエルの王にふさわしい人物であることを示しましたが、そのダビデはまだ15歳でした。それからしばらくの時が流れましたが、ダビデが王位に就くということは未だに実現しておらず、実現の気配さえ感じられませんでした。確かに、ダビデはあのゴリヤテを倒して手柄を立てましたが、それはかえってサウル王の妬みを引き起こし、ダビデはサウルから逃れなくてはならなかったのです。当時王座に就いていたのはサウルであり、サウルは軍隊を思いのままに用いることが出来ましたから、ダビデはとても危険な状況に置かれていました。とは言え、ダビデがその気になれば、サウルを王座から降ろすことも可能ではありました。しかし、ダビデはそうせずに、神様がお定めになった時を待ちました。また、ダビデ自身の気持ちが沈んでしまい、(将来王になることを)諦めそうになる時もありました。サウル王は、やがて敵によって殺害されましたが、今度はサウル王の元家来たちがダビデに激しく反抗しました。そして、イスラエルの12部族のうち11部族がダビデを支持しないという事態も生じました。

ダビデが実際に王として即位したのは、彼が30歳の時です。30歳になっても、ダビデは信仰に堅く立ち続け、神への感謝を忘れませんでした。本日の聖書箇所である詩篇101篇では、神に忠実であり続けたいというダビデダの願いが綴られています。ダビデは、神の御心にかなった完璧な奉仕者になりたいと切実に願い、イスラエル王国の国民にも、同様の志を持ってもらいたいと願っていました。それは、高尚な目標ではありましたが、国のリーダーとして相応しい願いだったと言えましょう。

讃美歌　494

祈　り　天におられるお父様、あなたがお定めになった「神の時」に信頼し、いつもあなたに喜ばれる生き方を求めることが出来ますよう、お導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

メリー・エスティーズ
カリフォルニア州サウザントオークス

7月7日(火)

主をほめたたえる

聖書朗読　詩篇　１０４：１～１４

わがたましいよ。主をほめたたえよ。わが神、主よ。あなたはまことに偉大な方。
あなたは尊厳と威光を身にまとっておられます。　詩篇　１０４：１

私たちが「祝福を受けた」と言う時には、神様から何か良い贈り物（物質的な物とは限らない）を頂いたことを意味することが多いと思います。聖書を見ますと、逆に私たち人間が「神様を祝福するように」との勧めも書かれています（※訳注：上掲の詩篇104:1にある「主をほめたたえよ」という部分は、多くの英語聖書では「主を祝福せよ」という意味の英語表現が使われています)。私たちが「神様を祝福する」とは一体どういうことを意味するのでしょうか。

今日の多くの英語聖書が「祝福する」と訳している表現は、旧約聖書の時代には、幅広い意味を持つ表現でした。祝福は「何らかの素晴らしいものを与える」という意味だけでは決してありませんでした。例えば、創世記27章には、エサウの長子の権利がヤコブによって奪われる出来事が記されていますが、この箇所でエサウは、父イサクからの祝福を受けることになっていました。この箇所で「祝福を受ける」ことの意味は、第一に、父イサクが所有する土地や財産をエサウが受け継ぐこと継ぐこと意味しています。この点では、現代で言う「相続する」と意味が重なる面があると言えます。しかし、「祝福を受ける」のことの意味はそれだけではありません。第二の意味として、次のような意味もあるからです。すなわち、ヤコブが率いてきた一族の長として責任ある立場に就いて、一族を守り養う義務を負うということをも意味するのです。こうした意味を含んで、イサクはエサウを祝福しようとしたのです。

そうした意味を踏まえて考えるならば、「主をほめたたえよ」（訳注:上述のように、英語聖書では「主を祝福せよ」）が意味していることは、「神様こそ私たちを守り養って下さる方であることを認め、神様にすべてをゆだねていくこと」だ言えるのです。

私たちが神様を「ほめたたえる」時、神様を賞賛することに留まらず、神様に対し全て（私たちの不安や悩みも含めてすべて）を神様におゆだねしたいものです。神様こそ、私たち神の家族を導くお方として、全幅の信頼を神様に置くことが出来るよう、祈って参りましょう。

讃美歌　270

祈　り　全能なる神様、あなたこそ、全幅の信頼を置くに値する方だと信じます。
私たち自身をその御手にゆだねます。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マイラ・セットリフ・ブース・リース
テキサス州ラボック

7月8日（水）

祈りに耳を傾けて下さる神

聖書朗読　詩篇　１２０篇

苦しみのうちに、私が主に呼ばわると、主は私に答えられた。　詩篇　１２０：１

日曜学校が始まる前に友人と廊下で話していたところ、彼女は突然話すのを止めました。そして、あたりを見まわし、耳を傾けました。「誰かが『お母さん』と呼んだと思うの」と、彼女は言いました。

「誰がお母さんを探しているのかしら？」と私も当たりを見渡しました。私の子どもたちはもう10代になっています。小さかった頃にように常に私を必要としているわけではありません。しかし、子どもがいくつになろうとも、私たち親はいつでも子どもが求める時、それに応答したいと思うものです。

もっと壮大な観点で考えるのなら、私たちと神様との関係についても、同様のことが言えると思います。神様はいつでも、神様の子どもである私たちと共に居て下さいます。神様は、私たちが祈るときいつも耳を傾けて下さると約束して下さっています。そして神様は、私たちの思いを知りたいと思って下さっています。「私が呼ぶとき主は聞いてくださる」と詩篇4：3に記されています。

私たちが友人に話かけて悩みを打ち明けたいと思っても、その友人自身も別の悩みを抱えていて、他の人の相談に乗る心のゆとりがない場合もあります。また、自分の夫または妻に話を聞いて欲しいと思っても、妻または夫も心が落ち込んでいて話を十分に聴く精神的ゆとりがないという日もあるかと思います。そんな時、私たちの心の傷はますます痛み、孤独感を感じたり、愛されていないように感じたりするかもしれません。しかし、どんな時でも、神様は私たちを常に気に留めておられます。そして、私たちが祈りという神様との会話を交わすことを、待っておられます。私たちがどのような状況にあろうとも、神様は、常に私たちのために居て下さるのです。

讃美歌　310

祈　り　お父様、あなたがいつも共に居て下さることに感謝します。いつも気にかけて下さり、ありがとうございます。友人が話し相手を必要としている時、私たちがそれに気付くことが出来ますよう、お導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

シャロン・フォスター
テネシー州マキューエン

7月9日（木）

みことばによって養われる

聖書朗読　箴言　２：１～１１

そのとき、あなたは正義と公義と公正と、すべての良い道筋を悟る。

箴言　２：９

箴言は、私たちに真の知恵、英知、理解、そして洞察力を与える書とも言えましょう。霊的に賢く、判断力の優れた人というのは、神様の教えを謙虚に受け入れようとする人のことです。そのような神様の知恵に頼る人々は、箴言を通して、（霊的な意味で）勝利した人生について学び、神の守りを知り、神の知恵に基づく判断力や実直さを養います。箴言が教えていることは、単なる（人の考えから導き出された）「哲学的知恵」ではありません。そうではなく、神様から与えられる永遠の知恵であり、それは「主を恐れること」なくしては得ることは出来ません。

多くの場合、「聖書に精通している人」は、喜んで聖書を学び続けています。私たちも聖書を学び続け、そして学んだことを実際の生活で活かしたいと思います。真に知恵のある人は、みことばを学び、理解し、理解したことを実際の生活の適用し、実践します。主も仰いました。「これらのことが分かっているなら、そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです」（ヨハネ 13:17）。

わが目を開きて　さやに見せ給え
今まで知らざりし　みことばのまことを

讃美歌　501

祈　り　神様、あなたの知恵とイエス様について正しく理解出来るよう、私たちの目を開いて下さい。御心に従い、あなたに対し忠実な僕でいられるよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ブルース・エヴァンス

7 月 10 日（金）

いつまでも若く

聖書朗読　伝道者の書　１２：１～８

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。　伝道者の書　１２：１

お年を召した方々は、自分自身の身体の老化について、身に染みて感じることがしばしばあるかもしれません。

しかし、お年を召した方々に、ご自身の「心の年齢」を何歳ぐらいだと思うか尋ねてみると、「20 代です」「30 代です」というお返事をよく頂き、驚かされます。そうお答えくださる方々は、「実際の年齢は高齢だが、心は若々しく、老化した身体に若々しい心が閉じ込められているのですよ」と教えて下さいます。

確かに、私たちが歳を重ねれば、身体の老化はどうしても起こります。しかし、クリスチャンに与えられている恵みの一つは、私たちの実際の年齢が高齢になったとしても、「内なる人は日々新たにされ」ている（II コリント 4:16）という恵みです。この意味において、「心はまだまだ若い」と心の底から感じる人は、（たとえ高齢であっても）その「内なる人」は確かに若いのです。

逆に、神様との関係が貧しい状態の人は、たとえ実際の若くても、霊的には疲弊した状態だと言えます。こんにち、神を知らない多くの若者たちが、人間関係で躓いたり、薬物問題等により苦しんでいます。そして彼らの心は、彼らの実際の年齢よりも元気を失った状態になっています。しかし、もし若者たちが神を知っていて、実際の年齢も心の年齢もどちらも若々しかったとしたら、どんなにすばらしいことでしょうか。そのような若者は、「若々しさ」をあらゆる面で、満喫することが出来ることでしょう。

しかし、最も大切なことは、私たちが若かろうが歳を重ねていようが、神様によって「内なる人」を日々新たにして頂くことです。「内なる人」の若さを保つために、「今日出来ること」を、日々大切にして歩みましょう。

讃美歌　352

祈　り　万能な神様、何歳であろうとも、いつもあなたを覚えられますように。日々、私たちを新たにして下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジョン・ウィリアムス
テキサス州アビリン

7月11日（土）

礼 拝 に あ る 恵 み

聖書朗読　イザヤ　６：１～８

ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見てますますそうしようではありませんか。

ヘブル　１０：２５

預言者イザヤは、嘆くために神殿へと行きました。イザヤは神殿で「高くあげられた御座に着いておられる主」を見たとともに (6:1)、セラフィムが「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主」と呼び交わしている声を聞きました (3 節)。その時、イザヤは自分が「汚れた」者であることに気付きました。すると、セラフィムが飛んで来て、燃えさかる炭をイザヤの口に触れさせ、イザヤの罪をきよめました。そして、イザヤは主の御声を聞きました。「だれを、遣わそう。だれが、われわれのために行くだろうか」と主は仰せられたのです。そしてイザヤは「ここに私がおります。私を遣わしてください」と主に申し上げたのです (8 節)。

このイザヤの体験は、私たちが教会に集まり礼拝をお捧げする際に私たちが体験することとも重ねて考えることが出来ると思います。神殿でセラフィムが神を讃美していたように、私たちが礼拝する際にも、礼拝の場は「神への讃美の場」となります。そして神の偉大さや素晴らしさが讃美を通して表わされる時、私たち人間の小ささや罪深さを礼拝者は改めて気付かされます。しかし、祈りや主の晩餐を通して、私たちは、罪がきよめられている恵みを思い起こします。そして、救いの恵みに対する感謝に心があふれる時、私たちは「神様のために生きていきたい」という思いが与えられるのです。このような体験を、礼拝においてすることが出来るならば、それは本当に豊かな礼拝なのではないでしょうか。そしてこのような体験を通して、私たちは、神様との関係をより深めていくことが出来るのです。

讃美歌　142

祈　り　天なるお父様、御名を賛美します。私たちがどのような存在で、そしてあなたがどのようなお方であるのか、よく知り、神様と私たちとの関係を深めることが出来ますよう助け導いて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェニングス・デイヴィス

7 月 12 日(日)

御 国 の 到 来

聖書朗読　イザヤ　９：１～７

暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上がった。」

マタイ　４：１６

イザヤは、トラブルや心配事が尽きない時代に生きた人でした。アッシリア帝国により、イスラエルの人々は脅かされていました。マタイもまた、イザヤのようにトラブルと心配事が尽きない時代に生きた人でした。ローマ帝国がガラリヤもそしてユダ地方も統治していたからです。しかし、イザヤは預言しました。「しかし、苦しみのあったところにやみがなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は、辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川のかなた、異邦の民のガラリヤは光栄を受けた」（イザヤ 9:1)。そしてマタイは、この預言は主イエスによって成就すると捉えました。暗黒のような状況の中にいる人々は、遂に大いなる光であるイエス様を目にすることになるのです。イエス様により、大いなる喜びがもたらされるのです。そして、その喜びを味わうために大切なことは、悔い改めることでした（参照、マタイ 3:2)。イザヤも、聴く耳のある人々に対し、悔い改めるよう宣べ伝えました。

人々の中には、イザヤの預言とイエス様による救いの招きの両方を理解した人々もいたことでしょう。イザヤの時代に生きた人々は、善き政治的リーダーが与えられるという望みに喜びました。しかし、そのような地上的な意味を越えて、天の御国の王であられるキリストについての知らせを喜んだ人々もいたのです。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる』」（イザヤ 9:6)。このイザヤの預言は、イエス・キリストを指し示してもいるからです。魂の救い主である主イエスによってもたらされる喜びは、私たちを「讃美する者」へと変え、天の御国へと招いて下さいます。こんにち、私たちも様々なトラブルや心配事が尽きない時代に生きています。しかし、救い主を知る私たちも、イザヤの預言が指し示している「イエス様による救い」によって、確かな希望を持つことが出来ます。ヘンデル作曲の「メサイア」でも力強く歌われるように、「主は、とこしえまで、全てを支配なさる方」なのです。私たちの救い主は、そのような素晴らしいお方です。

讃美歌　162

祈　り　素晴らしい神様、あなたのひとり子であるイエス様を通して、私たちに希望を与えて下さったことを感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

メリー・エスティーズ
カリフォルニア州サウザントオークス